

よこはまウォーキングポイント事業の第 1 期の事業評価 及び 30 年度以降の展開について

よこはまウォーキングポイント事業は、29 年度で第 1 期（26～29 年度）の最終年度を迎えます。
第 1 期の事業評価と 30 年度以降の展開についてご報告します。

1 第 1 期（26～29 年度）の事業評価

(1) 事業目的：参加者 30 万人を目標に、日常生活の中で、ウォーキングを通じた健康づくりに
気軽に取り組んでいただくためのきっかけの提供

(2) 参加状況：29 年 3 月末現在で、参加者は 23 万人、参加事業所は 660 事業所を超え、多くの
参加を受け付けており、市内に「歩くムーブメント」が広がっています。

		26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
中期計画目標(累計)		50,000 人	150,000 人	250,000 人	300,000 人
進捗状況	(累計)	95,923 人	162,092 人	232,592 人(3月末現在)	—
	(単年度)	95,923 人	66,169 人	70,500 人(3月末現在)	—
※参加事業所数(累計)		—	280 事業所	663 事業所(3月末現在)	

(3) 事業の効果（28 年 11 月公表「28 年度利用状況調査報告書」より）

《健康行動の向上》

◇「参加前は運動していなかった」方も含め、参加者の 2/3 の「一日の歩数が増えて」います。

◇「参加前は運動していなかった」方の約半数が、「運動するようになった」と回答。

⇒ 参加者の運動習慣の大きな改善・定着につながっています。

《健康感の向上》

◇ 参加者アンケート調査からは、9 割を超える方が「健康である」と感じており、

◇ 特に、「参加前は健康ではなかったと感じている」方の 6 割以上が、「参加後は健康である」と感じている。

⇒ 健康寿命算定の指標の一つである、参加者の「健康感」が向上しており、健康寿命の
延伸に期待ができる結果を確認しています。

《ソーシャルキャピタルの向上》

◇ 参加者の約半数が、ウォーキングをきっかけや話題に「周囲との会話や挨拶の機会が増えた」と回答。

◇ 参加者の 1/4 が「リーダー設置場所の商店街やスポーツセンター等へ行く機会が増えた」と回答。

⇒ ウォーキングを通じて、地域のつながりが広がる良い影響が見られています。

(4) 国内外をリードする取組として高い関心と評価

ウォーキングポイント事業は、他都市にない規模で事業を展開し、また、国際会議等の場において取組紹介も行うなど、本市健康づくり施策のリーディング事業として高い注目を集めています。

☆「健康寿命をのばそう！アワード」で自治体トップの『厚生労働大臣 優秀賞』受賞(28 年 11 月)

☆「WHO 健康づくり国際会議(上海市)」で取組内容を紹介 (28 年 11 月) 等

2 30年度以降の事業展開

第1期の事業展開の状況を踏まえ、

- ①市内の健康づくりの盛り上がりの機運を一過性のものとせず、広く「健康づくりのムーブメント」へとつなげ、
- ②健康寿命の延伸を目指し、効果も確認している事業を推進して確実に参加者の健康増進へとつなげていくため、ウォーキングポイント事業は 30年度以降も第2期として継続します。

3 第2期の目的と方向性

(1) 実施期間

第1期と同サイクルの4年間（30年度～33年度）を想定

※年度毎に評価・検証のうえ展開します。

(2) より広い世代への「歩くムーブメント」の拡大

【スマホアプリ】若い世代も含め広く健康づくりを浸透させていくため、30年度中に新たに、スマートフォンで利用できる歩数計アプリスキームを導入します。

【歩数計】スマートフォンを使用していない高齢者等に向け、歩数計の配付を継続します。

【参加規模】スマホアプリと歩数計の参加者合計で、第1期の参加目標30万人を上回る規模を維持することを想定しています。

(3) 「歩く機会の創出」による参加者への継続支援の推進

○参加者の健康増進を目指し、例えば、新たに「プラス1,000歩、多く歩く参加者を増やす」ことを目標に掲げるなど、健康行動の習慣化を進めます。

○「商店街とのタイアップイベント」や、「スマホアプリを活用したイベント」、「ウォーキングイベント」の開催等に取り組みます。

○イベント情報のスマホアプリでの発信や、メール配信に取り組みます。

(4) データ分析・事業効果の検証

○第1期と同様に、歩数データ等の分析とアンケート調査を有効に活用した検証を実施します。

○新たに医療費抑制等の効果検証について検討を進めます。